

顧客重視の提案型物流で成長路線を快走する

株式会社川本カーゴ 奈良県橿原市

株式会社川本カーゴは、平成9年、貨物車ディーラーの営業マンから転身した川本社長が設立したフレッシュな会社である。

全く経験のない輸送事業において、文字通りゼロからのスタートであるが、従来の運送業にとられない柔軟な発想で「総合物流商社」を標榜し、大手企業を始めとして次々に取引先を開拓してきた。

その顧客第一主義の提案型物流は、品質に関する国際規格 ISO9001（2000年版）の認証取得や「経営革新計画」の県知事承認により裏付けられ、高速道路網整備の進む奈良においてさらなるビジネスチャンスを模索する。

会社概要



会社名：株式会社川本カーゴ
所在地：奈良県橿原市一町 292-1
電話：0744-27-0010
FAX：0744-27-0321
設立：平成9年（創業平成8年）
代表者：代表取締役 川本 起弘
資本金：1,000万円
従業員：37名
事業内容：一般貨物運送業

URL：<http://www.kawamoto-cargo.com>



物流を企画・提案する総合物流商社

株式会社川本カーゴは、平成9年、川本社長が文字通りゼロからスタートしたフレッシュな会社である。それまで全く経験のない事業であり、事業をサポートする3人の部長を始め異業種からの転身組が多いが、その分、従来の運送業にとられない柔軟な発想で取引先を開拓していった。

「総合物流商社」を標榜し、単に荷物を運ぶのではなく、顧客に対して物流の企画や提案まで行うのである。

多くの企業では、本業については熱心でも、物流について無頓着な面があり、物流面において複雑で非効率な部分も多く抱えている。さらに、企業内においても、仕入から、生産ライン上の物流、また、販売・納入、回収・廃棄と、物流において効率化を提案する余地は大きい。

社長は「企業経営者の皆さんは、本当は物流経費などゼロであったら良いと考えています。そこからスタートし、仕入から出荷までの物流を徹底的に見直し、効率的な物流システムをトータルに提案することで、顧客は物流コストを低減でき、当社も業績アップが図れます」と語る。

事実、顧客企業では物流経費が600万円から200万円まで削減できたところもある。運送会社としては収益減少だか、そのような取引先を増やしていくことで同社は急成長を遂げたといえる。

顧客第一でパートナーシップ

設立当初は大手運送企業の下請を行い、価格競争の中でなかなか利益が出ない時期もあった。そこで、ディーラー出身の社長らしい発想と企画力が生きてくることになる。

顧客の立場に立った、合理的な物流の提案によるパートナーシップの確立。いたずらな拡大路線



より利益優先を目指す、迅速な意志決定・進路変更である。

企画力を武器にした提案セールスで直接の顧客開拓を行い、大手企業にも理解され食い込むことで、さらに信頼が増し新しい顧客を呼んだ。

ただ、どんな素晴らしい提案も、提案するだけでは成約には繋がらない、「相手は、それを実行できるか見ている。信頼を得られるかどうかで、成功は80%決まる」との社長の思いは強い。

荷主が安心して任せられ、効率的な物流システムを築き上げるため、顧客・商品別に作業手順を定めた個別マニュアルが制定されている。そして、社長を始め、3人の部長らを中心にパートナーシップを強めることにより、「顧客にとってのオンリーワンの地位」を獲得していった。

同社の人員構成は、管理・営業の人員が多いことが特徴的である。できるだけ荷物の積み込みに立ち会い配送の品質を維持するためであるが、このコストは信頼コストと割り切る。

信頼を形にするISO9001認証取得

社長が最も重視する「信頼」を形にするため、平成14年5月、他社に先駆けて品質に関する国際規格ISO9001（2000年版）の認証を取得した。

荷主がせっかくISOを取得し、厳正な品質管理の下で製造したものが、配送が原因でクレーム発生となりかねない。そこで、納入先まで責任を

持って届ける「荷主の営業マン」の役割も果たす。

さらに、同年9月には「経営革新計画」の県知事承認を受け、一層の信頼獲得を目指している。

また、顧客や荷物に直接的に接する従業員の就労環境整備や教育にも注力し、16年には安全性優良事業所にも認定され、小グループ活動や専門講師による講習会などで、全社員参加型の品質向上に努めている。

企業利益の第三の源泉「物流」

企業において、販売の増強と仕入原価の削減は、これまで利益の源泉として特に力が入れられており改善の余地が乏しくなっている。

そのため、市場でのシェア獲得を争う現代のビジネスにおいては、最も効率的に、そして低コストでモノを動かす競争の時代に入り、「物流は第三の収益源」ともいわれている。

近年の物流は、「ロジスティクス」という考え方に急速に変化している。

「配送」という狭い考え方ではなく、調達物流・生産ライン物流・販売物流から回収・廃棄までのモノの流れを、低コストを貫きながらコントロールすることであるが、川本社長の戦略はまさに時代の流れを読んだものといえよう。

高速道路網の整備でさらなる発展を目指す

現在、同社では全従業員のISO品質監査資格者取得を目指しており、また、車両位置検索システム（GPS）の導入、さらには、サードパーティロジスティクス（包括的な物流業務の受託）への準備など、顧客満足度の向上、クレームの低減に向けた活動が進行中である。

遅れていた奈良県内の高速道路網整備も、近年の「南阪奈自動車道」の開通、また、建設途上の「京奈和自動車道」などにより、飛躍的に高まりつつあり、同社の近代的な物流事業にとって、また新たなチャンスが訪れようとしている。

（山城、武村）